

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1192300141		
法人名	社会福祉法人 章佑会		
事業所名	和光市共生型福祉施設ひかりのさと		
所在地	埼玉県和光市丸山台2-20-15		
自己評価作成日	令和 5年 10月 25日	評価結果市町村受理日	令和 6年 1月 24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階
訪問調査日	令和 5年 12月 14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひかりのさとは認知症高齢者と身体障害者が同じ建物で共に暮らす地域密着型の共生型福祉施設です。去年の夏コロナウイルスクラスターが起き一時は交流する機会が減ったが今年に入り合同行事を再開し施設内での交流も定期開催する事で認知症高齢者と身体障害者が顔見知りの関係、助け合いの関係を築けています。今年から納涼祭を施設内だけではなく一般公開し家族を呼ぶことができたり、地域サロン開催の際は場所の提供をしたり、ひかりのさと独自のリビングルームを開催する事で地域に住んでいる多世代の方の交流はもちろん、施設の入居者様が地域交流できる場所にもなっています。またそのような活動をインスタグラムを利用し公開する事で施設内だけで完結しない交流の場所を多くの人に知ってもらえる機会を作っています。またひかりのさとガーデンを作り季節の野菜を育てたり花を植える事で地域の小さい子供たちやその親が足を止めたり施設の入居者様が水やりをしながら季節を感じる機会を作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は高齢者、障害者も垣根なく共生するという理念を掲げると共に母子、生活困窮者も支援する総合共生型施設である。職員は2Fの高齢者、3Fの障害者のフロアを行き来し、居室担当者を置かず全員で利用者を見守り、支援している。リビングサロンでは「体操の日」「子どもとの交流」「ペーパーマッサージ」「石鹸作り」等のイベントを開催し積極的に地域との交流をしている。運営推進会議では市の高齢者担当と障害者担当の職員、地域包括支援センター職員が必ず出席しており、自治会長、民生委員と共に利用者への対応に関するアドバイスをもらっている。集会所での餅つき大会等地域のイベントの情報も積極的に取り入れて地域に根ざした共生型施設として機能している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念と共生型という施設のコンセプトに基づいて職員が高齢者の介護も障害者の介護も垣根なく行える体制づくりをし実践している。	法人の理念として高齢者も障害者も垣根なく共生することを掲げている。職員は生活のリズムがそれぞれ違う高齢者と障害者のフロアを行き来して、理念に基づいたケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域清掃・地域イベントの参加や地域サロンの開催場所を施設内で行ったり学童の子供達との交流もしている。	自治会に加入し、地域との交流を積極的におこなっている。学童の生徒たちが毎月手作りのカレンダーを届けてくれる。近くの公園では保育園児と交流している。地域に根差した事業所として機能している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一般高齢者向けうるかむ事業、リビングルーム(独自事業)の実施		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表の方から地域行事の参加の仕方などアドバイスをもらっている。	2か月に一度、市役所高齢者担当、障害者担当の職員、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員の出席を得て開催されている。事業所からの報告に対して出席者から意見やアドバイスをもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、報告を行っている。その都度、相談を行い、ご指導、助言をいただいている。	運営推進会議では市の担当者が必ず出席し、有意義な意見をもらっている。窓口へは入居対象者の報告や届け出等で出向き、関係を密にしている。事業者の連絡会や研修にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修で身体拘束の研修を管理者を主として定期的実施している。電子錠や自動ドアのスイッチ類は自由な出入りを妨げている。	エレベーターの電子ロックや玄関の暗証番号使用は安全面確保のためであり、家族には承知してもらっている。研修ではどのようなことが身体拘束に当たるのか事例を基に話し合っている。日々のケアをふり返り、皆で考えながら対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で虐待の研修を実施できていないが職員間で意見交換を行いさまざまなケアの方法を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々のケースに応じて関係者と協議し、取り組んでいる。併設する地域包括支援センター職員からも助言を受け実践に生かしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に手紙や電話で説明や相談を重ね、当日も再度説明をしたうえで確認を取りながら契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に一度の家族会の実施や請求書と一緒にお手紙を同封、メールのやり取りを行っている	2か月に一度、家族会を開催している。利用者の日常の様子を伝えて家族からの意見を聞くようにしている。希望や要望は個人的に連絡される事が多く、必要に応じて迅速に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に二回、全体会議やフロアミーティングの場を作り職員の意見や提案を受けて反映できるよう努めている。	フロアミーティングでは事前に話し合いのテーマが決められて、職員は自分の意見をまとめて臨んでいる。日々のケアの実践の中で職員の意見が反映されている。イベントは職員が企画している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	リーダーからの報告や必要に応じ、個人面談を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人に向けてのOJTの実施をしてその内容を申し送りながら一人一人の力量に合わせた指導に当たっている。外部研修に関しては実施できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	併設する包括支援センターを通じネットワークづくりを行っている。市内の施設同士が開催している井戸端会議に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のインテーク、アセスメントの実施を通じて一人一人のやりがいや不安を聞きその要望を解消できるようスタッフが話し合いを行える環境を作ってる(会議など)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望の面接時から関係構築し、課題把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	受け入れ前のケアマネや関係機関、担当包括と連絡を取り合い相談したり家族と電話や面談をすることで対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自身でできる事、また分担しながら役割をもって生活を送ったり気が合うもの同士を同じテーブルにするなどしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度手紙を送ったりイベント時に撮影した写真も一緒に送付している。また面会を通して本人の施設での様子を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親族などの面会を行っているが馴染みの人(友人)との交流は難しい。しかし、地域イベントに参加する事で近所の人が声をかけてくれることもある。	現在はフロアや居室での面会が可能になり家族が訪れている。納涼祭やクリスマス会は家族も一緒に楽しんでもらっている。家族と共に自宅へ行ったり食事に外出する利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う入居者様同士同じテーブルにしたりレクリエーションや行事を通じて関係性の構築や関わり合いの強化を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後の手続きを行うとともに、併設する包括支援センターを通じて、経過を把握している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人のしたいことを聞いたり観察を行い計画作成担当を中心に職員と一緒に意向の把握の反映に努めている。	利用者の生活歴はアセスメントで把握しているが、それらが続けられているかは日常生活や会話の中で確認している。言葉が困難な利用者には表情やしぐさを見ながら判断をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に関係機関との調整やご家族などへの聞き取りにて把握している。入居後もやりたいことを本人に聞いて可能なものは実施できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現場の職員と計画作成担当が一日を通して本人ができてきていることの維持に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のフロアミーティングにおいて本人の現状と課題について話し合いながら家族に相談しながら計画作成担当が計画を立てている。	ケアプランの更新の時期が近づくと、職員に利用者の様子を確認して意見を聞いている。利用者は何がしたいか、何ができるか、何をあげられるか意見を出し合い個別ケアを重点としたプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録の共有を行っている。また記録にケアプランの実施状況を記入する事で本人の出来る力や望んで逸る事の把握をした上で介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者個々の状況に合わせて必要な機関(医療機関・包括・他介護サービス事業者)へ繋げたり連携を図り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設入所前から地域とのつながりが薄くなってしまっている人が多いが入所後に地域サロンや地域行事に参加する事で繋がりができる環境を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設に入居と同時に訪問診療へ切り替えることを家族に説明し定期的な診察を行う事で適切な医学管理と健康管理体制を構築している。	利用者全員が月2回の内科訪問診療を受けている。歯科医は毎週来訪し希望者が受診している。他科の定期通院は家族同行だが職員が同行することもある。緊急時には24時間訪問医に連絡可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居施設に看護師がいないが、日々の生活の中で変化があった場合は併設している地域包括支援センターの看護師に相談したり訪問診療に電話相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は管理者や計画作成担当者が医師やワーカーとの関りを密にし、退院後の協力が得られるよう配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問診療の医師と相談、連携を図りながら重度化してきた際は家族と面談しながら状況の説明を行っているが地域の関係者と共にチームでの支援は行っていない。	家族には入居時に事業所としての指針を説明して了承を得ている。食事摂取が困難になったり医療処置が必要になった場合には家族、主治医、事業所で話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの施設内研修の実施や急変時の連絡体制の確認、連絡先の把握		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画に基づいた定期的な消防訓練と地域の防災訓練に参加している。	年2回、消防署立ち会いの下で避難訓練を実施している。車椅子利用者は布担架で移動訓練をしている。マニュアルを作成し、SNSでの連絡網もある。3日分の水や食糧の備蓄をしている。	火災対策だけではなく、地震と水害に対する意識も強化していきたい。地域の方々に声掛けをして今より多くの方々の訓練への参加を得て、連携を深めたいと考えている。早期の実践を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、プライバシーを大切にしながらその方が理解しやすい言葉かけを考えながら対応している。	個人のファイルやパソコン内の情報は管理されている。申し送りの際は名前ではなく部屋番号を使っている。居室ドアのノックやトイレや浴室の扉を開けたままにしないなど、プライバシーへの配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	空いている時間に本人とコミュニケーションを取りながら希望を聞き出し叶えられるよう努力しているが自分の思いを言えない方に関してはこちらが先読みして決定している事もある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設入所後も本人が今まで生活してきたリズムを大切に生活している方もいるが食事や睡眠時間や入浴に関しては一律化している部分もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	週に2回ある入浴時、自分で着る衣類を選択できるよう促したり毎朝の洗面時はくしを渡し自ら整容ができるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日決められたメニューなので好みに寄り添うことは難しいが後片付けを一緒に行うなど本人の継続できる能力の維持に努めている。	可能な利用者にはテーブル拭きや食器拭きを手伝ってもらっている。季節を感じるメニューや行事食、お誕生日会のおやつを楽しんでもらっている。お花見や紅葉狩りの帰りには外食もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取状況を把握しながら本人が好むものを健康状態と照らし合わせながら提供したり食形態が落ちた入居者様に対してはその人に会う食形態での提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行えているが自分で歯磨きをしているがきちんと磨けていない入居者様のケアは不十分などところがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導以外本人がいつも失禁している時間を見極めてその時間に誘導しなべくトイレ内での排尿を促している。	排泄チェック表を基に定時にトイレ誘導をしている。昼間はリハビリパンツを使用し、全員がトイレでの排泄をしている。夜間は定期巡回を行い声掛けをして必要な方はトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の入居者様で歩行が安定している人にはフロア内の掃除などを促し施設内での運動を心がけている。また水分の強化、医師へ相談して薬の調整なども行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本、入浴予定の通りに行っている。個別の事情があれば随時変更している。	週2回、午後の時間帯に入浴してもらっている。お風呂は好きだが入浴までに時間がかかる人や入浴嫌いな人には工夫して入浴してもらっている。ゆず湯やしょうぶ湯で季節を味わってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が休みたい時間に居室で過ごせるよう支援しているが夜間に関しては入居者様によっては一律化している方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容を薬と一緒に薬を届けてくれる薬剤師と確認したり会議などで薬の副作用などを学び本人の状態の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が昔好きだったものや行っていたことかなるべく施設でも継続して行えるように本人に聞きながら取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族の協力を得たり、職員と近くの店まで買い物に出かけたり公園へ散歩に出かけている。地域交流などで地域サロンに参加しているが協力体制は整っていない。	外出可能な時には近くの公園まで散歩に出かけている。外気浴程度でも出かけて気分転換をしてもらっている。職員と近くのドラッグストアまで買い物に行ったり、家族と共に買物や食事に外出する人もいる。個別支援は希望があれば応じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内で本人が自身のお金を管理したり所持したりしていることはないが買い物に行った際にお会計を任せたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話が来た際は本人と話せるよう家族に提案したり時間を設けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には行事の写真を掲示して記憶を刺激したり水道には季節の花を飾り季節感を出すようにしている。季節行事があればフロアの飾りつけも行っている。	日中はほとんどの人がリビングで過ごしている。廊下とリビングは床暖房で、加湿器で湿度を調整している。季節の花を飾り、壁にはレクリエーションで作った飾りを掲示しているが原色は避けている。カウンターキッチンからは食事準備の気配が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では本人の過ごしやすい時間(本や新聞を読んだり好きな音楽を聴く)を過ごしたり仲の良い入居者様を近くの席にしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が必要なものはなるべく普段から使っていたなじみの物を持って来てもらうことで混雑が軽減されたり居心地の良い空間になるよう配慮している。	エアコン、カーテン、照明が備品であり、ベッドは持ち込みかレンタルになっている。テレビや家具など馴染みの物や趣味の物を持ち込み、自宅での生活の延長で居心地よく過ごしてもらえるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの生活様式に合わせたなじみにある物を居室に置いている(時計・鏡・電気シェーバー・テレビなど)		